

## 平成29年度酪農教育ファーム活動 事業計画（案）

平成29年3月24日  
 一般社団法人 中央酪農会議  
 酪農教育ファーム推進委員会

## I. 平成29年度事業の考え方

平成29年度の酪農・国産牛乳乳製品理解促進広報事業については、指定生乳生産者団体（以下「指定団体」）制度、日米二国間交渉及び日欧 EPA を巡る情勢、国際需給などの情勢を踏まえ、①日本酪農の維持・発展を妨げる（指定団体からの離脱助長、生活者の国産への意識低下等の）風潮の抑制、②生活者・酪農家からの共感意識の醸成を目的に、①日本酪農・国産牛乳乳製品を支える指定団体の共同販売の重要性、②安全安心な国産牛乳乳製品の重要性、③日本酪農の存在意義の3点を訴求テーマとして、情報発信を実施することとしている。

上記を踏まえ、平成29年度の酪農教育ファーム活動については、現行の認証制度及び推進体制の下、飼養衛生管理基準の遵守及び感染症防疫マニュアルに則った現場での取り組みを徹底しながら、酪農の価値や酪農家の生き方を消費者等に直接伝えることで酪農の存在意義や価値の再認識に繋げるため、以下の取り組みを行うこととする。なお、指定団体制度を巡る動き等を踏まえ、各会議や研修会等の場においては、引き続き最近の酪農を巡る情勢について説明する時間を設ける。

また、平成30年度に、本会議が酪農教育ファーム活動に本格的に取り組んで20年の節目を迎えることを踏まえ、今後の活動の更なる発展を目指した取り組みを検討する。

## II. 平成29年度活動計画メモ

## 1. 推進委員会等

- (1) 全国の酪農教育ファーム推進委員会の開催【2回、9月・3月】
- (2) 指定団体担当者会議の開催【2回、5月・2月】
- (3) 平成30年度に、本会議が酪農教育ファーム活動に本格的に取り組んで20年の節目を迎えることを踏まえた取り組み等について、酪農関係者及び教育関係者（日本酪農教育ファーム研究会で想定）で検討を行う。
- (4) 地域推進委員会への支援・出席

## 2. 認証制度の適切な運用

- (1) 新規認証牧場・ファシリテーターの募集【11月末まで】
- (2) 認証審査委員会の開催【12月】
- (3) 研修会の開催
  - ①認証研修会【1～2月】  
札幌、東京、大阪の3カ所で検討。
  - ②スキルアップ研修会【8月～11月】  
札幌、仙台、東京、新潟、名古屋、岡山、福岡の7カ所で検討。

指定団体名	H29年度 認証期限者数
ホクレン	42
東北	44
関東	45
北陸	31
東海	30
近畿	13
中国	11
四国	8
九州	27
中酪	6
総計	257

(4) 活動実態調査の実施

【上期分（4月～9月）を10月、下期分（10月～3月）を翌年4月】

(5) 認証牧場・ファシリテーターの管理

### 3. 実践者の拡大・普及

(1) 業界紙（誌）への記事広告を通じた酪農家等関係者への普及

(2) 教育関係者への普及

①夏の研究集会【7/29（土）】

共催：日本酪農教育ファーム研究会

対象：教育関係者及びファシリテーター

内容等：教育関係者と酪農関係者の双方において、酪農教育ファーム活動のさらなる発展のために、内容や運営方法等を検討する。

②牧場体験研修会【7～8月】

対象：小学校教諭を中心とした教育関係者

場所：認証牧場（地域での開催も含め検討）

内容：酪農体験、意見交換、ワークショップ等で検討

(3) その他

過去の研究実績を、組織内や学校への紹介などにおいて使えるよう、分かり易くまとめた資料の作成について、継続検討。

### 4. 安全・衛生・防疫対策

(1) 研修会での啓発【認証研修会、スキルアップ研修会】

(2) 最新の情報の伝達【文書、ホームページ、facebook 公式ページ、機関誌「感動通信」】

### 5. 広報

(1) 機関紙「感動通信」の発行【4回、7/1・10/1・1/1・3/31】

(2) ホームページ及び facebook 公式ページによる情報発信

### 6. 制作物

(1) 既存の教材等の増刷・配布

(2) 新規制作物の検討

(3) 28年度に実施の活動資材使用状況調査の結果等を踏まえ、各種ツールの破損・紛失等への対応等を検討

### 7. 他団体との連携

(1) 地域交流牧場全国連絡会

(2) 日本酪農教育ファーム研究会

(3) Jミルク・乳の学術連合

以上

